

1 人1台端末の利活用に係る計画

1 人1台端末をはじめとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

本町では、学習指導要領及び中央教育審議会答申「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」(令和3年1月)を受け、1人1台端末の利活用によるクラウド上での情報共有を図りながら授業を展開している。児童生徒の可能性を引き出すため、教材や発達段階に応じて単元内自由進度等で自分のペースで学習を進め、個別に課題設定をして探究する個別最適な学びの充実を図り、主体的に学ぶ力を育成している。加えて、友達の考えをクラウド上やノート、会話などを通して、他者参照や途中参照しながら学びを深める協働的な学びを促し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図っている。ICT環境を生かすことで、学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力を発揮し、各教科の見方・考え方を働かせた深い学びを実現する「学び続ける子供たち」の育成を目指す。

GIGA 第1期の総括

ICT環境を生かした「自ら学び続ける力」を育成する授業づくりの推進

子供たちの「自ら学び続ける力」の育成を目指し、令和6年度までに、職員、児童生徒への1人1台端末と通信ネットワークの整備を行ってきた。家庭への端末持ち帰りが日常化し、授業では90%以上活用するなど使用頻度は高い。この取組により、個々の学び方に合った授業や選択をする機会が増えた。本町が実施した令和6年度のICTに関する調査(対象:全学年児童生徒)では、「これまでに受けた授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間になっていましたか」に対して「あてはまる」29.5%「どちらかといえばあてはまる」58.4%の結果であり、肯定的な回答が87.9%と自ら学ぶ意識が高い傾向にある。

リーディングDXスクール事業の取組

吉田町全教職員研修会

令和4年度より町内の全教職員で「自ら学び続ける力」の育成を目指し、ICT環境を生かした授業づくりを学ぶ「吉田町全教職員研修会」を年5回開催している。毎年、町内全小中学校が開催し、授業公開後、事後研修を行っている。研修では、

指導案等の資料をクラウド上で共有しながら授業公開し、参観授業に対する感想もクラウド上（チャット）で共有している。受付やアンケートもデジタル化し、運営上も DX を進めている。

児童生徒の情報活用能力

本町は、令和 5 年度よりリーディング DX スクール事業に取り組み、学校における情報化が先進的に進められてきた。国が行った教員の ICT 活用指導力等の実態調査（令和 6 年 3 月）では、「できる」「ややできる」と肯定的な回答をした職員が 95%であった。教員の ICT 指導力向上に伴い、令和 6 年度全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙（質問番号 27）では「小学校 5 年生（中学校 2 年生）までに受けた授業で、PC・タブレット等の ICT 機器をどの程度使用しましたか」という質問に対して「ほぼ毎日」「週 3 回以上」と回答した児童は 93.8%、生徒は 96.4%と全国の数値を大きく上回った。このことから吉田町の児童生徒は積極的に ICT 機器を授業で活用しているといえる。

令和 6 年度全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙（質問番号 27）

		ほぼ毎日	週 3 回以上	週 1 回以上	月 1 回以上	月 1 回未満
小学校	吉田町	75.9%	17.9%	3.1%	2.2%	0.4%
	全 国	25.3%	34.2%	26.0%	10.3%	4.2%
中学校	吉田町	90.9%	5.5%	2.7%	0.5%	0.0%
	全 国	31.0%	33.4%	24.6%	7.8%	2.8%

加えて、町が行った令和 6 年度 ICT に関する調査では、「学習の中でクロムブックなどの ICT 機器を活用することについて、次のことがあなたにどれくらい当てはまるか」という 7 つの質問に対し 6 つの質問で 8 割以上の肯定的な回答があったことから、ICT 機器の活用による一人一人のペースに応じた学びができ、学習内容の理解を実感している傾向にあるといえる。一方、「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」の質問に対して否定的な回答が約 3 割あることは課題である。今後、自分の考えや意見を伝え合うよさや充実感を味わえる学習にも意識を向けていく必要がある。

令和 6 年度吉田町 ICT に関する調査（対象：全学年児童生徒）

	とても そう思う	そう 思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
1 自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	38.4%	46.7%	12.1%	2.8%
2 分からないことがあった時に、すぐ調べることができる	42.4%	37.3%	14.7%	5.6%
3 楽しみながら学習を進めることができる	40.2%	40.5%	14.8%	4.5%
4 画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる	37.2%	46.4%	12.2%	4.2%
5 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる	28.7%	42.0%	24.2%	5.1%
6 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	41.4%	42.4%	13.2%	3.0%
7 友達と協力しながら学習を進めることができる	52.2%	36.6%	8.7%	2.5%

※質問内容は、令和 6 年度全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙（質問番号 28(1)～(7)）と同様のもの

学校情報化認定

本町は、日本教育工学協会（JAET）が認定する、学校情報化診断システムを活用して、情報化の状況を自己評価し、総合的に情報化を進めた学校を認定する 学校情報化認定に令和 4 年度から取り組んでいる。令和 4 年度は、町内の全小中学校が教育の情報化に総合的に取り組み、情報化によって教育の質の向上を実現している学校情報化優良校として認定され、吉田町教育委員会は、学校情報化先進地域として認められた。

1 人 1 台端末の利活用方策

ICT 環境を生かした授業づくり

探究的な学習過程を大切にした個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

ICT 環境を生かし自ら学んでいく探究的な学習過程を大切にした授業づくりを引き続き行う。これまで取り組んできた ICT 環境を生かした他者参照や途中参照をしながら一人一人の学び方を大切にするとともに、課題となる「楽しみながら進める学習」「自分の考えや意見を伝え合う学習」が充実するよう、魅力ある学習課題や単元構想や協働的な学びの在り方の工夫を図る。

学びの保証

児童生徒の特性や理解度・進度に適した学びの保証を目的としたクラウド型サービスの活用など、学校外においても学習できる環境を整備する。

ICT 研修の充実

町主催の研修のオンライン、ハイブリット開催

研修の意図や効果を考慮し、研修の開催方法を対面形式、オンライン形式、ハイブリット形式から適切なものを選択する。その際、職員の時間的な負担と研修の効果を考えた内容とする。

ICT スキルアップ研修

1 人 1 台端末やクラウドを活用した令和の日本型学校教育を展開するために、必要な ICT 研修の充実を図る。そのための支援を教育委員会が行う。クラウドサービスが主催するスキルアップ研修会の開催を学校の要望に応じて実施したり、新しいシステムやアプリを導入する際は、必要に応じて説明会を開催したりする。また、活用情報や国の DX の動向等の情報提供や情報モラル・情報セキュリティーに関する知識向上を目的とした研修を実施する。

ICT 支援員の配置

ICT 支援員を配置し、職員の ICT 活用を推進するとともに、職員が行う必要のある作業と ICT 支援員が効率的に行う作業を棲み分けし、働き方改革を進める。

今後の計画(令和 7 年～10年)

課題	・ 授業における ICT 環境を生かした質の高い研究 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図る授業づくり ・ 教員の ICT に関する研修の実施と必要な支援の充実
----	---

施策	・ 町内の ICT 推進事例の共有 ・ 全教職員研修会による ICT 環境を生かした「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図る授業づくり ・ クラウドサービスの効果的な利用に関する研修の実施
----	--

成果指標	【学校における教育情報化の実態等に関する調査】（国） ・ 授業に ICT を活用して指導する能力 「できる」「ややできる」と肯定的な回答をした職員 100% 【ICT に関する調査】（吉田町） ・ 自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていると回答する児童生徒 80%以上 ・ 端末を活用した「心の健康観察」を行う学校 100%
------	--